

# 獨楽庵便り

2025 年新年号

明けましておめでとうございます。

旧年中は大変お世話になりました。皆様のご支援により、「獨楽庵茶会」というミニマルな懷石によるコンパクトな茶事が、獨楽庵の活動の一つの柱に成長しました。

本年は、引き続き「獨楽庵茶会」に尽力すると同時に、茶会や講習会などのイベントも企画して参りたいと思います。茶の湯を中心とした日本文化の振興・創造の場となれますよう変わらぬご指導よろしくお願い申し上げます。

一般社団法人獨楽庵

代表理事 小坂優（宗優）

## 獨楽庵の日常



昨年は、一汁三菜のミニマルな懷石と場面転換によるコンパクトな茶事『獨楽庵茶会』という獨楽庵独自のスタイルを確立することができたと思います。試行錯誤の過程ではお客様

に進行面でご迷惑をお掛けしたり、不出来な料理を差し上げたことも多々あったことと存じております。

それでも、お客様には影に日向にご支援頂き、また過分なお言葉も頂戴いたしました。これが原動力になりました。心より御礼申し上げます。

『獨楽庵茶会』では、前段（初座）の懷石は楓の間（広間）で椅子と机というリラックスした空気のなかで差し上げています。中立後の後段（後座）は、一転して小間席で、電灯を消し自然光と蠟燭の灯りのもと緊張した空気のなかで濃茶を差し上げ、薄茶は電灯をつけて開放的な空気のなかで差し上げています。この開放→緊張→開放という心の動きは侘び茶の一つの要諦と考えています。皆様がどのように感じられたか率直なお言葉をお聞かせ頂ければ幸いです。

## 令和七年新たな試み

令和七年の獨楽庵は、『獨楽庵茶会』と『桑心会』を柱に、大寄せ茶会、講演会などのイベントを企画してまいると考えております。

まずは、二月に2つのイベントを開催します。

### ① 獨楽庵風大寄せ茶会～倶楽茶会

一人でも気楽に参加できる機会(\*1)をとの声にお応えして、「大寄せ」形式の茶会を開催します。「大寄せ」と言っても三疊台目の獨楽庵を使用しますので一席は最大6名と、言わば「小寄せ」茶会です。

毎回ゲストに、獨楽庵を担当して頂き、席主の自由な発想でお馴染みの獨楽庵が、どのような表情を見せるのか。お楽しみに。

日時 2月16日（日）午前10時より

会費 6,000 円

お申込はホームページが便利です。

[dokurakuan.com/kuraku-chakai](http://dokurakuan.com/kuraku-chakai)

QRコードをご利用ください。



(\*1) 獨楽庵友の会の会員様は、お一人でも獨楽庵茶会に参加頂けます。いわゆる「一客一亭」です。一疊台目席での「一客一亭」は、宗徧流の原点にして大歓迎であります。何卒気兼ねなくお一人でご来庵下さいませ。

### ② 桑心会別会～名児耶 明先生講演会



書道史、書文化研究の第一人者、名児耶 明先生（元五島美術館副館長、現 筆の里振興事業団副館長）をお迎えしての講演会です。

日時 2月18日(火) 午前11時より

演題 「書の伝来」

会費 5,000 円(点心、呈茶つき)

お申込はホームページが便利です。

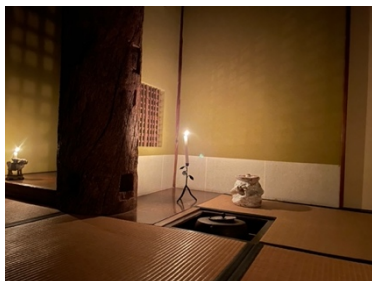
[dokurakuan.com/soshinkai-special](http://dokurakuan.com/soshinkai-special)

QRコードをご利用ください。



## 暗闇を楽しむ

茶人の世界では、厳冬のこの時期「夜咄(よばなし)」と称される茶事を楽しみます。読んで字のごとく、夜長を気の置けない茶友とゆるゆると数寄話をして過ごそうという茶事です。



日頃、人工の光に慣らされた現代人。暗闇に身をおいて、蠟燭の灯のもとで懷石を食し、茶を喫することで五感を研ぎ澄まし忘れていた美のセンスに気づくことができるのが「夜咄」の楽しみの一つです。

獨楽庵ではこの時期、『獨楽庵茶会』の席入時刻を午後5時まで受け付けています。席入の頃にはまだ陽が残っているかもしれませんが、後座入りの頃には露地は暗闇に包まれているはず。手燭を頼りに雁行で露地を進み、真っ暗な席に。極寒に蠟燭の灯に映し出



される真っ白な湯気は、「夜咄」の醍醐味の一つではないでしょうか。

露地には松葉が敷かれ、冬の装いが整いました。この季節、気の置けない茶友と冬の茶を楽しんでみませんか。

## 小唄はいかが



小唄松峰派家元 松峰照師匠に出稽古に来て頂いています。(江戸)小唄は、幕末に成立した最も新しい邦楽ジャンルの一つです。2、3分の短

い曲の中に邦楽のエッセンスを散りばめ、江戸っ子最良の歌詞を唄います。江戸っ子と言えば、「粋でいなせ」

と言われますが、その実は「痩せ我慢」であると思います。

古今亭志ん生師匠の逸話に、江戸っ子は蕎麦につゆなんぞつけねえと豪語していたが、いよいよ余命幾ばくかなったので、遺言はありますかと聞かれ「死ぬ前に蕎麦につゆをたっぷりつけて食いてえ」と言ったとか言わないとか。これぞ、江戸っ子の痩せ我慢だともいいます。

そんな粋な歌詞を、爪弾きによる渋いネジメの三味線にまかせて唄う心地よさ。一度見学にいらしてみませんか。稽古日は、第二、四木曜日の午後です。唄に抵抗がある方は、三味線から入るという手もあります。

## SNS



獨楽庵では、インターネットを活用して情報発信をしております。獨楽庵茶会をはじめとする各種イベントもホーム

ページでお知らせし、ホームページからお申し込み頂けるようにしております。また今月からクレジットカードでの決済も可能になりました。頻繁に情報更新をして参りますので、ご笑覧ならびに拡散をお願いします。

■ ホームページ：<https://www.dokurakuan.com/>



dokurakuan



dokurakuan1



dokurakuan



LINE 公式アカウントも始めました。是非友達追加をお願いします。

## ミニマル

「獨楽庵茶会」の懷石を「ミニマル」と形容しています。ミニマル (minimal) とは、日本語で言えば「必要最小限」という意味です。足りないことを嘆くのではなく、積極的に無駄を削ぐという精神です。「知足」という言葉と同義です。利休は「家は漏れぬほど、食事は飢えぬほどにて足ることなり」と語ったと言われています。